

<全体分析>

試験時間 2科目120分

解答形式

記述, 論述, 選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は昨年と同じ3題であり、論述量も昨年とほぼ同等であったため、全体の分量は昨年並みであった。また、昨年まで出題されていた実験考察問題がほとんど出題されなかったが、答えにくい知識を問う論述問題が増加したことから、難易度も昨年並みだった。

出題の特徴と昨年との変更点

- ・例年、実験考察問題が出題されていたが、今年はお題がなかった。
- ・出題の中心は論述問題であり、全体の分量が多く、試験時間内にすべての設問に解答するのは難しい。
- ・例年は描図問題の出題頻度が高いが、昨年と今年はお題がなかった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述 論述	恒常性 免疫 タンパク質 遺伝	生物基礎 生物	f)ア) 実際には腎臓からはエリスロポエチンとよばれる赤血球の産生を促進する物質が分泌されることが知られているが、教科書には記載がないので、解答例以外でも論理的に誤りがない解答であれば許容されるであろう。	標準
2	記述 論述 選択	神経 恒常性 発生 進化・系統 生殖 遺伝子	生物基礎 生物	i) 褐虫藻のメリットについては、「光がある場所に移動できる」などの別解が考えられる。	標準
3	論述	進化・系統 生態	生物	f)ア) オーストラリア大陸は真獣類が進出する前に他の大陸から分離したため、オーストラリア大陸の有袋類は真獣類との競争を免れることができたと考えられている。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、これを正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・過去問の演習を通して、東京医科歯科大で特徴的な出題に慣れておこう。
- ・描図問題の対策として、教科書に記載されている図やグラフをよく確認しておこう。
- ・試験時間に対して問題量が膨大なので、問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げるとともに、自分が解ける問題から解き始める習慣を身につけよう。